

▶ 第7回目となる今回は、山梨県立産業技術短期大学校 生産技術科 2年 宮下 宝さんが、株式会社天鳥 代表取締役 志村 雄氏 を取材しました。



学生

山梨県立産業技術短期大学校
生産技術科
2年 宮下 宝さん

ものづくりを楽しんで 真の成長を継続する

経営者

株式会社 天鳥
代表取締役
志村 雄氏



▶ 学生

工作機械を使用して精密機械部品の製造をされていると伺いました。業務内容をお聞かせください。

▶ 経営者

弊社は創業23年目ですが、自社商品はなく装置メーカーさんから依頼をいただいた商品の図面を基に金属を削って機械部品を製作し、品質、納期等を確保しながら、絵に描かれているものを形にしていくことをメインに活動させていただいています。金属にも様々な種類があり、鉄、アルミ、ステンレス、要望によってはチタンなどといった特殊な金属も切削加工させていただいています。主にMC(マシニングセンタ)やNC(数値制御)旋盤、そのほかにも研削盤、放電加工機を使用して部品を製作している会社になります。

▶ 学生

少人数での生産活動の狙いをお聞かせください。

▶ 経営者

少人数で行うメリットというよりは、まだまだ会社が成長段階であって、これから規模を拡大していくのか、これまでの規模でこの仕事を確立していくのか、それはきっとこれからの方向転換にかかってくると思います。当然、ものを作るにあたって設備も必要になってきます。少しずつ設備を増やして、人を増やして、また、人を入れたからといっても5年、10年で一人前とは言えず技術は日進月歩で進歩していくものですから、教育をし

て経験を積んでもらいます。

▶ 学生

御社で採用するにあたって求める人材とはなんでしょうか？

▶ 経営者

技術をはじめから持っている人、学校で学んだ経験や知識を当てにして人をとるというよりは、弊社で働きたいという人が面接に来ている時に今までどんなことを努力してきたか、どんなことに情熱を傾けてきてどのような取り組みをしてきたのか、うまくしゃべれるということよりも、頑張っている姿が一番観させていただきます。というのも、努力してきたことや取り組んできたことは、これからも継続できるものだと思うし、自分なりに努力して卒抱して、壁を乗り越えられるかが重要だと思っています。また、学校で学んできたことが会社に入ってから役立つかという点もあくまで基礎なので、会社で学ぶことを素直に聞き入れる柔軟性、より良く改善しようという姿勢が大切だと思います。

取材を終えて…

今回初めての取材で緊張しましたが、実際の生産現場を訪問してよい経験をする事ができました。資格が就職活動で有利に働くと思っていましたが、一番大切なのは「何に熱心に取り組んだか」「今でも続けていることで何か他人に誇れるものを持っているか」ということを知らされました。もちろん資格が今まで頑張ってきたことの証明になることも改めて気づくことができました。就職してもこの気持ちを大切にしたいと思いました。

▶ 学生

御社のこれからについてお聞かせください。

▶ 経営者

装置メーカー様などに依頼された部品を製造していく上で、弊社だからできる品質、納期、価格というものがあるので技術を高めていき、そこをより磨いていくことは常に基礎となることだと考えます。弊社の技術を提供したお客様に満足していただけるような存在になっていきたいと考えています。そのためにも、しっかりと技術力、提案力、設備、人材含めてより磨きをかけていきたいと考えています。また、機械などを動かすのは人なので、人材教育が永遠の課題だと感じています。弊社の経営理念「ものづくりを楽しんで真の成長を継続する」のように自分で楽しみを見つけられる人材、自分たちが作った製品というのはあまり見かけないけど、その部品によって装置が成り立っていることも知ってもらい自らの自信や誇りにできるような人材を育てていきたいと考えています。

